

# 旧総合資料館跡地等の活用に係る 論点整理と方向性

京都府 文化施設政策監

# 旧総合資料館跡地等の活用に関する主なご意見①【第1回意見聴取会議】

## 【交流の観点】

- ・プロが公演する施設を一般の府民も使えるということが大事
- ・子どもたちが文化芸術に親しめることが重要。親子連れで気軽に体験できる施設が良いのではないか。
- ・文化芸術を切口に多様な人々の交流(アートミックス)が生まれると良い。
- ・新しい発見ができる場所。毎週末に北山へ行けば何かやっているような状況になれば良い。
- ・人が行きたくなる、集まりたくなる場所

## 【調和・空間づくりの観点】

- ・文化芸術と自然に親しむことができる「空間づくり」ができれば良い。
- ・京都の文化や空気感も伝えられるような展示スペースがあれば良い。
- ・文化度が高い北山において、日常生活の延長線上として文化芸術に触れることができる施設が造られれば良い。
- ・「ここに住んでみたい」と思われるような地域の方に喜んでもらえる施設を造ってほしい。

## 【運営の観点】

- ・地域とのつながりを大事にして地域住民と連携した運営をしてほしい。一方で、海外の最先端の芸術も呼べるようにレジデンス施設があっても良いのではないか。
- ・北山エリア全体をどうしていくのか。エリアマネジメントとして考えていく必要がある。
- ・SNSを活用するなど海外に向けても発信することが大事
- ・お金のかけどころを調整して上手くやりくり出来る方法がないか。
- ・ビジネスセンスも含めた市場の力を賢く借りた運営体制
- ・マイノリティーの方など多様な人々と向き合って運営することが大事

## 【その他】

- ・府民の皆様の意見をどれだけ聴いたのかということが大事。ワークショップのような形で府民の意見を聴く場を設けるべき。
- ・今の時代、民間との連携は不可欠であるが、事業者に丸投げではなく公募条件をしっかりと設定するなど、ガバナンスを効かせることが大事
- ・旧総合資料館が閉館したままになっているのは非常にもったいないので、地域の方に喜んでもらえるような形で暫定的にでも何とか活用すべきではないか。
- ・既存施設とどこに差をつけて、特別な機能を持たせるかを考えてほしい。
- ・バリアフリー化など時代に即した機能的で使いやすい施設

## 旧総合資料館跡地等の活用に関する主なご意見②【自治会や関係施設等からの意見聴取】

### ■意見聴取の状況（令和4年11月7日時点）

地元自治会等 6学区、幼稚園・保育園等 15園、福祉施設等 10施設、小学校・中学校・高等学校10校、幼稚園保護者ワークショップ など

#### 【新たな舞台芸術・視覚芸術拠点施設に望むこと】

- ・大小様々な規模のホールがある方が使いやすい。
- ・高齢化に伴いシニアの演劇や合唱などの活動に取り組む人が増えると思う。使い勝手の良い場所に施設があると良い。
- ・利用料金が安ければ、子どもたちの発表会で使いたい。
- ・子どもエリアなどで区切るよりは、一般の客席で一緒に観られた方が子どもの発育に有効だと思う。
- ・公演後に子供向けの体験（音楽・演劇等）があると嬉しい。
- ・イベント等の情報収集がなかなかできない。学校や幼稚園等から子ども向けイベントの情報提供があれば行きたい。
- ・こども文化会館が閉館したので、新たな文化芸術施設で子どもの発表会ができるとありがたい。
- ・周辺の中学校は生徒数500人程度が一般的であるので、全校生徒で発表会等を行える施設はありがたい。一方、保護者が観覧する場合には1千人程度の規模が必要と考える。
- ・コンサートホールと棲み分けをして上手に運用して欲しい。
- ・コンサートホールとは用途が異なるので新たに劇場が造られるのは良い。

#### 【その他】

- ・文化芸術会館のギャラリーは中2階のような構造になっていて使いやすい。
- ・旧総合資料館跡地は景観上よくないので、早く更地にしてほしい。
- ・ロームシアターでは0歳児から参加できるコンサートが開催されているように、乳幼児の頃から音楽に親しませたいと思ったときに気軽に訪れられる場所がほしい。
- ・子どもが行くことができる文化公演は非常に人気がある。子どもと一緒にみんなで鑑賞できるような施設が良い。
- ・バレエの発表会として、京都こども文化会館の閉館後は文化芸術会館を利用している。文芸会館は素晴らしい舞台だが、座席がもう少し広げればと感じる。

▶ 今後も、ワークショップなどにより幅広い府民や利用者の方から引き続き意見聴取を予定

## 論点①「全体コンセプト」

### 文化芸術を軸とした人々の交流創出

#### <委員意見>

- ・プロが公演する施設を一般の府民も使えるということが大事
- ・子どもたちが文化芸術に親しめることが重要
- ・文化芸術を切口とした多様な人々の交流(アートミックス)



- ▶ プロ・アマチュアを問わない多様な人々の交流により文化芸術創造の好循環の創出が求められるのではないか。
- ▶ 子どもたちをはじめ、幅広い府民の方が文化芸術に触れて交流することでエリア全体の魅力向上につなげるべきではないか。

### 北山エリアのエントランスとしての役割

#### <委員意見>

- ・新しい発見ができる場所。毎週末に北山へ行けば何かやっているような状況になれば良い。
- ・人が行きたくなる、集まりたくなる場所



- ▶ 北山通からエリア内に人々を誘導するエントランスとしての役割が求められるのではないか。
- ▶ 他の立地施設とハード・ソフト両面で有機的に連携する機能が必要ではないか。

### 周辺環境との調和

#### <委員意見>

- ・「ここに住んでみたい」と思われるような地域の方に喜んでもらえる施設
- ・文化芸術と自然に親しむことができる空間づくり



- ▶ 豊かな自然環境や住環境との調和を図り、日常から離れたやすらぎと憩いを提供する整備ができないか。

### 機能的かつ誰もが使いやすい空間

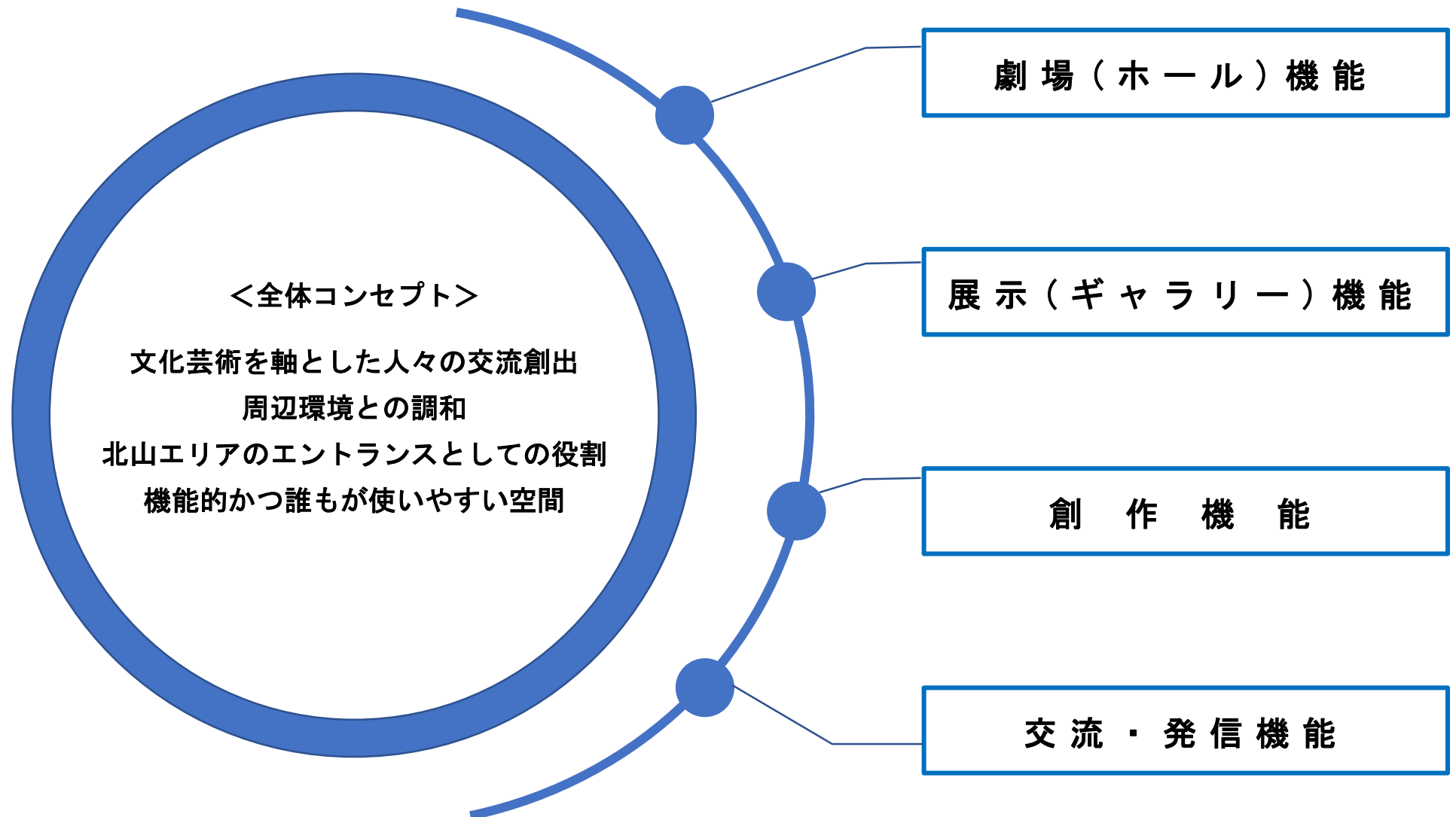
#### <委員意見>

- ・バリアフリー化など時代に即した機能的で使いやすい施設
- ・マイノリティーの方など多様な人々と向き合って運営することが大事



- ▶ 子どもや高齢者、障害者、妊産婦など誰もが快適で安心して利用することができる空間づくりが必要ではないか。
- ▶ 多様な文化芸術活動に対応できるようにハード・ソフト両面で高い柔軟性が求められるのではないか。

## 論点②「求められる機能と整備・運営に関する基本的な考え方」



## 論点②「求められる機能と整備・運営に関する基本的な考え方」

### 劇場(ホール)機能

- ▶ 演劇を中心に伝統芸能やバレエ、ダンス等の舞台芸術や映画・映像など、多様な分野の公演に対応した機能が求められるのではないかな。
- ▶ 舞台と客席の一体感が感じられる舞台芸術の鑑賞にふさわしい空間が求められるのではないかな。
- ▶ 資材の搬出入などの運営面での柔軟性や機能性など、使いやすい施設が求められるのではないかな。

- ・ 伝統芸能や舞台衣装を体験できるプログラムがあるとよい
- ・ ハコだけでなく地域と接点を持ちながら如何に運営するかが大事



<第1回委員意見>

### 展示(ギャラリー)機能

- ▶ 絵画、彫刻、工芸作品など、様々な分野の美術工芸作品の展覧会の開催に対応した機能が求められるのではないかな。
- ▶ 展示以外にも多目的な利用が可能な大きな空間が必要ではないかな。
- ▶ 資材の搬出入などの運営面での柔軟性や機能性など、使いやすい施設が求められるのではないかな。(再掲)

- ・ 京都の文化や空気感も伝えられるような展示スペースがあればよい
- ・ 親子で気軽に美術を体験できると同時に本格的な作品の鑑賞もできればよい
- ・ 美術は敷居が高く親しまれにくいので、生活の中にあることをアピールできるような施設
- ・ 作品を展示するだけでなく販売にも繋がればアーティストの支援になる



<第1回委員意見>

## 論点②「求められる機能と整備・運営に関する基本的な考え方」

### 創作機能

- ▶ 演劇、伝統芸能、ダンスなど、多様な分野の創作（練習）活動ができる機能が求められるのではないかな。
- ▶ 各種パフォーマンスアーツの創作（練習）に対応可能な様々な大きさの練習室が必要ではないかな。また、狂言・落語・舞踊・邦楽などの伝統芸能に対応可能な和室が必要ではないかな。
- ▶ 美術工芸作品の創作活動や衣装製作・舞台道具工作などに対応可能なスペースが必要ではないかな。

若者が小遣い程度で、気軽に文化芸術の練習等ができるような施設



<第1回委員意見>

### 交流・発信機能

- ▶ 文化芸術を軸に多様な人々が交流し発信する北山エリアのエントランスに相応しい機能が求められるのではないかな。
- ▶ プロムナードなどのパブリックスペースにより、多様な人々の交流を促進する仕掛けが必要ではないかな。

- ・文化芸術を切口に多様な人々の交流(アートミックス)が生まれるとよい
- ・新しい発見や出会いを生み出せばよい
- ・SNSを活用するなど海外に向けても発信することが大事



<第1回委員意見>

### 付帯施設

- ▶ 北山エリア全体の魅力向上につながる付帯施設として舞台芸術・視覚芸術拠点施設をはじめとしたエリア内の他施設と相乗効果を発揮する機能が求められるのではないかな。

整備予定の公共施設や民間施設の区別は利用者にはあまり関係が無いのでシームレスなつながりを生み出せるような調和のとれた空間がよい



<第1回委員意見>

## 論点③「最適な事業手法」

旧総合資料館跡地等の活用に当たり、従来の公共工事の手法だけではなく、官民連携手法（PPP/PFI）の活用も想定し、最適な事業手法等の検討を行う必要がある。

また、公共施設を整備した上で生じた余剰地を活用することで民間による付帯施設を併設することによる相乗効果や地域の振興・活性化につなげる事例も増えている。

PPP/PFIとは、

- ・ 公共施設の建設・維持管理・運営などをより効果的（サービスの向上等）かつ効率的（財政負担の抑制等）に実施するために公共と民間が役割分担をしながら実施する手法
- ・ 民間事業者に一定のルールや整備・運営等の水準を守らせるために、しっかりとした要求水準書や契約書の作成、官民の役割分担の明確化、事業者の倒産リスクにも配慮した仕組みづくり、事業開始後のモニタリングなどが重要

### PPP/PFIの概念図

